

平成26年度伊丹市立松崎中学校 自己評価・学校関係者評価

1 校訓

盡己

2 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成

3 本年度の経営方針

校訓「盡己」の具現化をめざして、授業、行事、部活動を教育活動の3本柱とし、「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒を育成する

4 自己評価・学校関係者評価結果

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方針			
	生徒	保護者	教職員									
「一生懸命勉強する」生徒の育成	④～⑥	②～④	④～⑥	①学力が身につく授業実践	教員の授業力向上	・1時間の授業で「どのような力をつけるか(学習目標)」、そのための授業者ならではの「手立て」を設定した公開授業を行い、授業力の向上に努めた。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・88%(前年78%)の教師が「生徒指導が機能する授業」を実践していると回答しているが、「授業が楽しく、わかりやすい」と回答した生徒は68%(前年58%)、「授業内容について先生に質問しやすい」と回答した生徒が57%(前年53%)と若干評価が向上しているが教師の実践を生徒が実感できていない状況が考えられる。同じパターンでの授業、教師の授業に対する姿勢に課題があり、生徒による授業評価も今後検討する必要がある。 ・一人1回の公開授業が計画通りに実施されないことがあった。授業改善に対する意識の問題が原因である。当たり前のことだが、生徒が授業でわかる喜び、わかろうとする意欲につながる授業を常に意識して行う必要がある。 ・「この授業でどのような力をつけるのか」「そのための手立て」「力がつくとはどうなるのか」…A評価の力、B評価の力、C評価の力→「BをAに、CをBにする具体的な支援」を明確にした指導案を作成し、実践する必要がある。 ・全国学力調査・伊丹市学習到達度調査結果について、点数に一喜一憂するのではなく、客観的に分析し、研究に即した具体的な授業改善策を打ち出す必要がある。 ・幼小中合同研修会を具体的な取組につながるものにする必要がある。 			
					計画性を持った研修の実施	・6月、11月と1月に講師を招いて、校内研究授業・事後研究会を実施し、「生徒像」「手段」「授業仮説」を設定し、今後の研究の方向性を明確にすることができた。						
					生徒指導が機能する授業実践	・教師の「手立て」によって、わかる楽しさ、できたという達成感を感じながら、また「ペア」「グループ学習」によって、学び合い、つながり合いながら、自己存在感を実感し、学習意欲と学力が向上する授業実践の研究を行った。						
	⑦	⑤		②読書活動	図書室の整備	・図書のバーコード化ができた。	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・読書指導員が隔週勤務のため、勤務日でないときの図書室の開館方法を工夫する必要がある。 ・生徒会組織の活用を図り、生徒による自治活動を図書館運営に取り入れる必要がある。 ・授業とタイアップした読書活動を行う必要がある。 ・生徒会委員会活動を中心とした読書推進を行う必要がある。 			
			読書量の向上		・定期的に図書館だよりを発行し、新刊や推薦図書を紹介するなど、読書量向上に向けて取り組んだ。 ・図書貸出冊数…2,507冊(4～1月)、4冊/1人(前年3,638冊、5冊/1人) ・読書冊数…19,057冊(4～1月)、28冊/1人(前年16,366冊、22冊/1人)							
	⑬⑭	⑩⑪	③進路指導	進路指導体制の充実	・公立高校普通科の新通学区域に対応した受検指導を行うことができた。	4		<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の進路指導担当の連携を一層密にし、生徒指導体制と同様の進路指導体制を確立する必要がある。 ・進路学習ノートの計画的・系統的な活用を進める必要がある。 ・第2学区の公立高等学校に関して、進路選択のための情報提供を確実に行う必要がある。 ・新しい情報をタイムリーに発信し、進路選択がスムーズに行えるようにする必要がある。 				
				生徒・保護者への情報提供	・市教育委員会と連携して、保護者説明会を定期的に実施し、3年生保護者対象の説明会に加えて、1・2年生保護者対象の説明会を実施し、新通学区域による入学者選抜制度について周知を図った。 ・3年生に対して進路通信を定期的に発行するとともに、学年通信でも進路に関する心構え等、進路指導に関する情報の発信を積極的に行った。							
		④	④学習タイム	系統的・継続した実施	・6校時終了後に学習タイムを設定し、基礎的・基本的事項の定着や学習習慣の定着に努めた。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に教科の年間指導計画にあげて、学習目標を明確にし、達成状況を評価する必要がある。 				
学校関係者の意見等	<p><よい点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確なわかりやすい目標である。 ・評価の観点や評価項目が具体的にあり、大変よいと思う。 ・進路指導では、学区拡大に伴い、旧学区外の情報が少ない中、とても丁寧な説明と指導が行われたと思う。 ・放課後学習の指導では、多くの教員が熱心に携わり、どの学年も「上をめざすモチベーション」が生まれつつあると感じた。 				<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習面の充実が課題との認識をしているが、その通りだと思う。教師の授業力、生徒指導力の向上が必要である。 ・学力は小学校からの積み重ねの結果であり、これまで以上に小学校との情報共有のもと一人ひとりに応じた対応が必要である。 ・進路指導が3年時のみではなく、1年時から系統的、計画的な指導が必要である。 				<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正面から課題への改善方針が示されている。 ・学年毎および学校全体の一人としての教員のさらなる参加意識が必要である。 ・私学の授業参観、私学の教員を招聘しての職員研修をしてはどうか。 ・進路説明会について、当日欠席した保護者に資料配付はあるが、資料のみでは理解が難しいと思う。説明会を録画して、希望する保護者に後日、会議室等で視聴できるようにしてはどうか。 			

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方針
	生徒	保護者	教職員						
「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成				①部活動	部活動の活性化 部活動をとおしての仲間づくり	・部活動数14で市内で最多であり、活発に活動している。 ・阪神大会出場9、県大会出場5、近畿大会出場2、全国大会出場1と好成績を残した。 ・毎週月曜日と月2回(土・日)をノ部活デーに設定して、適度な休養を設け、けがの防止や効率的な体力向上に努めた。 ・入部率84%で、日常の活動だけでなく、地域行事に参加するなど、地域の小学生、大人との交流ができた。	3		・ノ部活デーが定着したが、ただ休むだけでなく、家庭学習に向けた課題を課すなど部活動と学習が結びつくような工夫が必要である。 ・部活動での取組が学習や普段の生活により面で影響が出るよう、技術指導だけでなく、人として向上するような取組が必要である。 ・お互いが高め合える人間関係づくりをめざす必要がある。
	③	③⑬	③	②学校行事	生徒の自己存在感、充実感、達成感の育成	・行事に燃え、生徒と一緒に汗を流す教師、学校行事で大きな声で歌える、しっかり行進できる生徒をめざし、各行事に取り組むことができた。 ・教師自身が競争意識を持って体育大会、合唱コンクールに取り組むことが生徒の取り組み姿勢にいい影響を与えた。 ・学校行事が楽しいと回答した生徒が92%(前年88%)、子どもが学校行事に積極的に参加していると回答した保護者が97%(前年94%)であり、取組の成果がみられた。	3		・生徒、保護者から肯定的な回答を得ているが、自己存在感の育成にまでは至っていない状況があり、今後も行事の内容をより充実させ、生徒と教師が丸となって取り組んでいく必要がある。
	⑩⑪	⑦⑧	⑦⑧	③生徒指導	生徒指導体制の整備 いじめ、問題行動への迅速な対応 不登校への計画的な対応 家庭との連携	・生徒指導委員会を定期的に開催し、情報共有のもと、全教師が同一歩調で指導に当たることができた。 ・いじめアンケート調査を5回実施し、実態把握を行い、早期発見、早期対応に努めた。 ・週1回、自分の気持ちや生活の様子を表す「にこちゃんマーク」を活用し、一人ひとりの生徒の状況把握に努め、早期対応を行うことができた。 ・生徒指導委員会での情報交換をもとに、一人ひとりの態様に応じた対応に努めた。 ・生徒指導ふれあい相談員との連携により、生徒の状況に応じた別室指導を行うことができた。 長期欠席者数20人(H27.1末現在)※前年度同時期30人 ・電話連絡、家庭訪問を行い、家庭との協力関係のもと、生徒指導を進めることができた。	3	3	・生徒指導共通理解事項をもとに、組織的な動きができるようにする。 ・いじめ防止基本方針に従い、常に危機意識を持って、日常の観察により、迅速かつ適切な指導を行うとともに、一人ひとりが持っている悩みを受け止め、生徒理解に基づいた対応を行う。 ・問題行動に対しては、解決を急ぐのではなく、中期的視野に立った丁寧で粘り強い指導を継続する。 ・不登校に対しては、電話ではなく、足を使った親身な対応を行う。 ・生徒指導が機能する授業を行い、生徒の自己存在感を育成する。
	⑫	⑨	⑨⑩	④教育相談	生徒理解のための取組 スクールカウンセラーとの連携	・学期に1回教育相談日を設定して、生徒理解に努めた。 ・生徒とのカウンセリングに加えて、教師とのコンサルテーションを実施し、適切な助言を受けることができた。	3		・「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」と回答した生徒が74%(前年66%)であり、教師と生徒の信頼関係づくりが必要である。 ・一日の大半を生徒と一緒に過ごす授業をとおして信頼関係を築く必要がある。 ・授業研究の柱である生徒指導が機能する授業の成果が出るよう日々工夫する必要がある。 ・スクールカウンセラーの活動について生徒と保護者に知らせ、相談体制を整える必要がある。
			⑮⑯	⑤特別支援教育	指導体制の確立 個別の指導計画の作成	・特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育推進委員会を定期的に開催し、支援内容の検討等、適正な就学指導を行った。 ・特別支援教育支援員が普通学級での支援を要する生徒に対する計画的な支援を行い、支援状況を毎日学級担任に活動報告として伝え、学級指導に活用した。 ・特別支援学級の生徒、普通学級における支援を要する生徒について個別の指導計画を作成した。	3		・個別の指導計画を学年会、校内研修会で活用し、共通理解を図るとともに、個別の教育支援計画の作成を進める。 ・普通学級における支援対象生徒の個別の教育支援計画を作成する必要がある。 ・特別支援教育支援員の支援状況を学級担任が把握し、学級での指導や保護者との連携に活かす必要がある。
				⑥生徒会活動	生徒会活動の活性化	・毎期、生徒会役員による挨拶運動と国旗・市旗・校旗の掲揚を行った。 ・生徒会リーダーズセミナー、文化発表会で、生徒会の取組を寸劇をとおして紹介した。 ・全校生徒による「魔法の言葉週間」を設定し、感謝の気持ちを伝えたい友だちを発表し、より良い仲間づくり活動を行った。	3		・教師の適切な支援のもと、生徒の自治活動を促す取組を進める必要がある。 ・年間を見通した活動計画を作成する必要がある。
	⑰	⑬	⑬	⑦健全な食生活	早寝・早起き・朝ごはんへの取組	・教科において、栄養素を考えたバランスのよい食事について知識を持つよう食育指導を行った。 ・保健だよりをとおして、朝ごはんの大切さ、規則的な生活週間について啓発を行った。	3		・「学校は規則正しい生活について呼びかけている」と回答した生徒が65%(前年度59%)であり、一層の啓発と家庭と協力した生活習慣づくりを進める必要がある。
	学校関係者の意見等	<p><よい点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノ部活デーの創設など新しい取り組みによって、各部活動へ影響が出るのではないかと心配したが、好成績な部が多く安心した。 ・全ての項目において評価が3となっており、次年度へのステップアップが大いに期待できる。 ・全学年とも合唱や聴く態度が素晴らしい、とても感動した。先生方の努力が見えた合唱コンクールであった。 ・体育大会では、どの学年もしっかりと行進し、胸が熱くなった。各競技では学級がまとまって、団結している様子が印象に残った。「若い力」と校歌斉唱では、元気のよい声で自信にあふれていた。 ・教室掲示がよく整備され、きれいで見やすく、生徒の頑張りを感ずる。 ・トイレ、手洗い場などに花を飾り、清潔に使われて、とても気持ちよく、生徒の落ち着きを感じる。 ・体育大会、合唱コンクールはここ3年間で最高のできであった。 ・行事での担任と生徒との一体感、会場全体の一体感、学級間の競争意識、勝つ喜びと負ける悔しさ等、松崎中の教員と生徒の今後の成長が楽しみである。 			<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的な地域奉仕活動(自校の緑化、清掃等)をさらに活発にすることも可能ではないか。 ・自分たちできれいな学校環境を作る取組も必要である。 ・生徒指導が少し弱い印象がある。若い教師が多くなってきているので、ノウハウの伝承方法の確立が必要である。 ・教育相談では、教員の思いと生徒・保護者の思いに差がみられる。教育相談週間での個人面談について、その内容等ができる範囲で保護者へ伝えることが必要ではないか。 			<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課題がよく分析されて、よい改善策が立てられている。 ・学校行事、部活動、授業の充実こそが、よい松中を作るベースになると思うので、全教職員あげてがんばってほしい。 	

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方針	
	生徒	保護者	教職員							
開かれた・信頼される学校づくり	①	①	①②	①学校評議員制度	学校経営への意見反映	・学校評議員会、学校関係者評価委員会を開催し、学校評価結果をもとに、様々な意見をいただいた。	3	3	・平素の教育活動を学校評議員が参観できる等、評議員会の実施方法を工夫する必要がある。	
				②学校評価	PDCAサイクルの実行	・昨年度の学校評価結果をもとに、土曜授業(オープンスクール)を実施し、保護者、地域の方に授業の様子、生徒の様子をみていただくことができた。 ・学校評価アンケート結果の経年比較を学年ごとに行った結果、生徒・保護者ともに肯定的な回答が多くなり、授業、行事に取り組む姿勢について一定の評価が得られた。	2		・学校評価資料のアンケート結果をふまえて、生徒指導が機能する授業をとおして、生徒との信頼関係を構築する。 ・学級懇談会を学期に1回程度実施し、保護者との関係づくりを強める。 ・一人ひとりの教職員が生徒、保護者の声を真摯に受け止め、より良い学校づくりに前向きに取り組む態勢づくりが必要である。	
		⑮⑲	⑳～㉓	③保護者・地域との連携	地域への公開、参観授業の実施 生徒、教師の地域行事への参加 学校からの情報発信	・土曜授業(オープンスクール)を行い、開かれた学校をめざした。 ・地域の諸行事(夏祭り、もちつき大会、清掃活動)へ部活動を中心として参加し、交流が図れた。 ・ホームページ、学校だより、学年・学級通信を通じて、家庭、地域に情報発信した(保護者配布、地区回覧、学校掲示板)。 ・校区内の3地区区会長会、理事会に管理職が毎月出席し、学校からの情報提供を行った。	3		・地域行事へ参加していると回答した生徒が28%(前年度27%)と改善がみられない状況から、保護者、地域の方に生徒の様子を知っていただく機会として、学期に1回程度の土曜授業を充実した中身にする。 ・地域行事へ参加する際、松中生と職員が松中独自のシャツやトレーナーを着用するなど、松中生の活動をわかりやすくする工夫をする。	
学校関係者の意見等	<p><よい点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業は前年度の反省をもとに実施されており、大変よい取組である。 ・部活動から集団で下校している時、地域で「おかえり」と言うと、「ただいま」といい顔で返してくれ、地域との関わりもよくなってきた。 ・地区社協の行事に積極的に参加し、地域の方々とふれあう姿を見ることができた。 ・どの地域行事にも必ず教員と生徒の姿が見られ、自然体で参加できていたように感じた。今後も継続してほしい。 				<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携については、部活動中心である。生徒個人が自主的に参加するよう、学級活動などでボランティアについて議論を深める必要がある。 ・地区理事会や会長会等が学校とタイアップするなど、さらなる連携協力関係を築く必要がある。 ・地域行事への保護者の参加が少ないように思う。地域の一人として保護者の参加を促す方を地域と協力して考える必要がある。 				<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域だけでなく、校種間交流(高校との交流等)によるボランティア活動を取り入れてはどうか。それを生徒および教師の自己啓発につなげ、将来的に継続する取組にしてはどうか。 ・保護者と連携した取り組みを取り入れることによって、PTA組織の強化を図る。 ・PDCAサイクルを継続させ、目標達成度を3以上にする。 ・松中独自のシャツ、トレーナー等の着用して教員の参加が視覚的にわかりやすくすることも地域との一体感を生む一つの方法だと思う。 	

※ 項目の評定については、生徒、保護者、教師のアンケート結果等から判断し評価する
(4:達成されている 3:ほぼ達成されている 2:あまり達成されていない 1:達成されていない)

4 自己評価における特記事項

・アンケート結果の経年比較(「学校へ行くのが楽しい」82%→88%、「学校行事は楽しい」88%→92%、「授業はわかりやすく楽しい」58%→68%、「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」66%→74%)
 ・アンケート結果で低い数値が出ている項目について、具体的な方策を打ち出し、すぐに実行していく必要がある。
 ・アンケート結果の特徴として、教員は肯定的評価が多くの項目において多い。しかし、生徒・保護者にとっては同じ項目でも低い評価となっている。客観的な要因分析を行い、早急に改善する必要がある。